

藤家原子力委員長の海外出張報告について

平成15年3月11日
原子力委員会事務局

1. 目的

オーストリア共和国ウィーンの国際原子力機関（IAEA）を訪問し、要人と原子力政策に関する意見交換を行う。また、ドイツ連邦共和国カールスルーエにて開催される、独ヘルムホルツ協会が主催する会議に招聘され、出席する。

2. 出張者及び日程

（1）出張者：藤家委員長、事務局 川口参事官補佐

（2）日 程：平成15年2月25日（火）～3月5日（水）

2/25（火） 日本発 カールスルーエ着

26（水）

独ヘルムホルツ協会（招聘）

28（金）

3/ 1（土）

2（日） カールスルーエ発 ウィーン着

3（月） IAEA 要人との会談

ブルカルト事務次長

谷口 事務次長

ジュン部長

4（火） IAEA 要人との会談

エルバラダイ事務局長

村上 部長

ウィーン発

5（水） 日本着

3. 結果概要

（1）IAEA 要人との会談

エルバラダイ事務局長との会談

・北朝鮮問題

当方より、北朝鮮問題に対する日本及びIAEAの対応に関して意見交換を行った。特に、北朝鮮が核兵器を保有した場合に我が国が核兵器を開発する可能性があるかのごとき一部議論に対し、そのような意志がない旨の発言を行った。

- ・核燃料サイクル政策について

当方より、核燃料サイクル政策に関する我が国の現状を説明すると共に、I A E Aにおいても核燃料サイクルに関する明確なメッセージを発信する等国際的な議論の必要性を述べた。

- ・ I A E A 邦人職員の増強について

先方より、邦人職員を増やすためにもより多くの優秀な応募者が必要だとの発言があった。

ブルカルト事務次長（原子力科学・技術応用局担当）との会談

先方より、放射線利用の分野に関して原研、放医研等多くの専門家を有していると思っているが、これら国際的に関心の高く、原子力利用の有意義な側面をアピールするような分野に対する我が国の貢献が必ずしも活発でないため、是非、委員長よりこれら I A E A の活動を我が国の関係者に周知願いたいとの要請があった。

谷口事務次長（原子力安全局担当）との会談

先方より、安全分野、セキュリティ分野及び保障措置分野において、世界的な枠組みづくりを行うなど国際面での我が国の戦略的な取り組みに対する期待が示された。また、I A E A 邦人職員を強化するために、官民が協力して人材登用を行うシステムが必要ではないかとの発言があった。

ジュン原子力発電部長との会談

先方より、米国の主導で進められている第4世代原子力システム国際フォーラム（G I F）とI A E Aが進めている革新的原子炉・燃料サイクル国際プロジェクト（I N P R O）とのシナジー効果を高めるための覚え書きを結ぶ方向にある旨の発言があった。

村上保障措置C部長との会談

先方より、保障措置の状況について意見交換を行った。その中で、我が国の保障措置政策の展開のため、政府にアドバイスを行うシンクタンクがあると望ましいのではないかと発言があった。

（2）独ヘルムホルツ協会主催会議出席

独国カールスルーエにて開催された、ヘルムホルツ協会が資金提供している独原子力研究の審査会議に招聘され、出席した。

同協会の会計を研究所ベースから研究プログラムベースへ変更するに際して、現状の研究と新規研究についての外部審査を実施したもの。